

精度 80%の抗体検査 —あなたが陽性なら？—

西宮市・伊賀内科・循環器科 伊賀 幹二（医師）

新聞やテレビでいわれる抗体検査の精度が 80%とは、皆さまは以下の 2つを考えるとと思います。

- ・ コロナ感染症患者の 80%が抗体陽性
- ・ 抗体陽性ならコロナ感染症の可能性は 80%

この 2つの異なる数字はともに一般人にとっては精度として理解されますが、医療者であってもこの 2つを混同している人が多いように思います。

インフルエンザやコロナ感染症は、診断用検査キットを用いて推定されます。それには、医療者が用いる以下の言葉の意味を理解する必要があります。

- － 感度
- － 特異度
- － 陽性的中率
- － 陰性的中率
- － 検査前（事前）確率
- － 診断基準（疾患の定義）

医療関係者以外でも、人間は上記のような概念を無意識に考えて行動してきました。例えば、アメダスがなかった 1000 年前では、天気予測として「特定の雲」がみられれば雨の確率が高いと考えられていました。

雨の時この雲の存在率が 70%で、晴れの時この雲の存在率 20%なら、この雲がみられたら 70/20（3.5 倍）で雨の確率高いということになります。しかし、雨の時この雲が 90%みられても、晴れでも 80%みられれば確率は 1.2 倍に過ぎません。そして、実際の予測率は、これが雨の多い雨期か、ほぼ晴れの雨期ではない時かで変化します

この話で

- － 雨の時のこの雲の存在率は感度
- － 晴れ（雨ではない）時のこの雲のない率は特異度
- － 雨期か雨期でないかは検査前確率
- － この雲がでたら雨の率は陽性的中率

です。

つまり、感度・特異度の高いものを使っても検査前確率が高ければ陰性的中率は低いということです。

まとめ

精度とは感度と陽性的中率の両方の意味があり、この両者を混同しない。

そして、検査前確率を設定して始めて後者を算出できる。